

向かいました。

幸いにも朝食時に降っていた雨は止んでいます。午前中は何とか持ちこたえてくれることを願いつつ、予定通り登山決行の決断が下されました。「アルパこまくさ」から10分ほど先の分岐までは大型バスで移動し、分岐から先は道路の幅員が狭く大型バスが入れないため、昨日レンタルしたワゴン車が大活躍です。バスを降りた分岐から秋田駒ヶ岳の實質の登山口となる八合目小屋までは3班に分けてピストン輸送を行いました。分岐から八合目までは予想以上に坂道で、距離も(8~9km?)と長く、歩くとなると3時間位は掛かりそうです。そうです、ちょうど上高地から横尾山荘に行くまでの時間になりますから、往復6時間！レンタカー無しではやはりきついのです。

第一陣は女性人と年配者、健脚のジャイアン、荻さん、相澤さん達は最終便となりました。途中、幸いにも田沢湖が展望でき、写真撮影もできました。帰りはきつと雨の中で見えないうらなあ〜と呟きながら…！暫く殿(しんがり)を会長と一緒に歩きます。もう有に2km以上は歩いたでしょうか？漸く第一陣を降ろしたレンタカーのワゴン車(佐々木氏運転)が迎えに来てくれました。最終便は更に上まで歩かなければなりません。先を歩いている健脚組の皆さ〜ん！



「お疲れさんでえ〜す！後20~30分位は頑張って歩いてね！皆さんは健脚だから大丈夫だよ〜！」…と心の中でエールを送りつつ…！確りと歩き続ける最終組の姿を窓越しに見ながら第二陣も八合目小屋へと向かいました。



九十九折りのカーブが続き15分ほどで八合目小屋に到着。まだ雨は降っていませんが今にも泣き出しそうな状況です。念のため合羽を着て、痙攣予防のため、味の素のアミノバイタル pro3,600、ツムラの芍薬甘草湯 69 を服用！さあ！準備万端！第二陣の出発



記念写真を撮り、秋田駒ヶ岳(男女岳:おなめだけ)山頂 1,637m目指して、いざ出発です。

歩き始めて程なく、やはり雨が降ってきましたが霧雨状態でそれほど気になりません。大降りにならないことを祈りつつ暫く歩くと、第一陣の皆さんが引き返して来ました。片倉岳の展望辺りまで登られたのでしょうか？これからの雨風の状況を考えると無理をせずに引き返すことを決断されたとのことでした。流石！「亀の甲より年の劫」英断に拍手！と思いつつ、第二陣は英断を称えながらも、引き返す



どころか山頂を目指します。流石、「高山植物の宝庫」の名に相応しく、色鮮やかなトリカブト、アキノキリンソウ、可憐なウメバチソウ、リンドウが雨に濡れながらもしっかりと自己主張して咲いています。風に吹かれ揺れる様はまるでお辞儀をして私達を暖かく迎えてくれているかのようです。正に Japanese「おもてなし！」と言ったところでしょうか。「welcome to Mt 秋田駒！」と言って心から歓迎してくれているようで、この台風の中でも有難くまた心が和みました。



片倉岳展望台に着く頃には雨、風共に激しさを増し、益々厳しい状況になって来ました。やはり台風10号の影響に間違いありません。暫く歩くと男性の登山者が下山してきました。横田さんとすれ違おうとした瞬間「あれっ！お久しぶりです〇〇の時に一緒された方ですよ！」どうやら横田さんと面識がある方でした。「上はとてすごい風と雨ですから呉々も気を付けて行って来て下さいね！」と言葉を掛けてくれた。気を引き締めなければ！と言い聞かせる。奇遇とは言え、こんな日にここで会うとは世の中狭いものだと痛感。登頂を諦め引き返すのかそれとも登頂目指して頑張るのかを思案しながら登り始めて45分阿弥陀池に到着です。強風と雨で水面が大きく波を打っています。

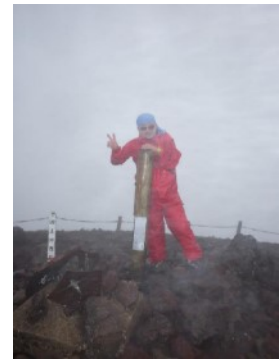


阿弥陀池に沿って2本ある歩道も池側の歩道は強風と滑って落水の危険があるため、山側の安全な歩道を歩くことにしました。あまりの強風と雨に写真を撮る余裕も無く、風で飛ばされ転倒をしない様に兎にも角にも急いで阿弥陀池の避難小屋へ向かいました。激しい雨風はおさまるところか、益々激しさを増して来ています。風速は30m近くあるのではないのでしょうか？何度も風でよろけながらも歩きます。今思うと女性陣が英断の下、引き返したのは賢明な判断でした。

八合目小屋から約50分、漸く阿弥陀池の非難小屋に到着しました。勿論、避難小屋には誰もいません。防災用のヘルメットが沢山備え付けてありました。トイレ休憩と一息入れ、男女岳山頂を目指すのか、このまま下山するのかを判断することとしました。男女岳山頂には分岐からコースタイムで20分で着きますが、如何せん雨風が激しくて此処に来るまでに何度も吹き飛ばされそうになる始末。まして山頂ともなれば風は更に強く、今まで以上に危険なことは明らかです。協議の結果、全員一致で登頂を決断しました。確りと身支度を整え、気を引き締め小屋を後にしました。登頂を目指す分岐まで来ると、ジャイアンと相澤さんが登って来ました。第3陣です。合流し一気に山頂を目指します。時間と共に雨・風が激しくなり、風速30mはあろうかと思われる位、立っているのが困難な程の強風が吹いて来ます。皆、飛ばされて怪我をしないように一時はしゃがみ込んで転倒するのを凌いでいました。雨は横から顔に叩きつけるように当たり痛みを



感じます。無事登頂できるか益々不安が募ります。歩き始めて15分、強風が後ろから体を押し上げてくれたお陰で足が自然に前に出ます。ついに念願の秋田駒ヶ岳(男女岳 1,637m)山頂に9名無事登頂です。雨風は非常に激しく立っていることともまなりません。皆さん、中腰で飛ばされないように堪えています。気を抜けば吹き飛ばされそうな状況です。



会長の「皆さん、こっちの影に来てください！」狭いケルンの影に身を寄せ合いながら記念写真です。頂上での滞在時間僅か2~3分！直に下山です。相変わらず強い雨風はおさまらず吹き飛ばされそうになりながらも慎重に一步一步確実に下山します。10分程で分岐まで下山しました。分岐からの帰り道は登ってきたルートとは違う東斜面のルートを予定していましたが、東側のため更に強風が予想されるとの判断の下、登って来たコースを下山することとなりました。(後から考えるととても賢明な判断でした。流石！「友の会」皆さん頼りになります。) 悪天候にも拘わらず誰一人怪我も無く、無事に予定時刻より早めに八合目小屋に到着。既に第一陣、二陣は「アルパこまくさ」へ向けて下山していました。もう温泉に入りり昼食を食べていることでしょう。小屋で待つこと30~40分、迎えの車が到着し、「アルパこまくさ」へ向けて下山となりました。

観測史上初となる東北地方太平洋側への直接上陸の台風10号、この強風と雨の中での登頂は、「友の会」に**新たな伝説の一頁**として刻まれたことを確信しました。折に触れ、台風10号(RIONROCK)の強風・大雨の秋田駒ヶ岳登山の登頂決行は話題になることでしょうね！それにしても皆さん無事で何よりでした。

強風と大雨の中無事登山を終え、疲れた体を癒やすため「アルパこまくさ」に到着すると早速温泉に入りました。内風呂から露天風呂へ、おや！露天風呂に入っているのは「鶴の湯」で露天風呂に入っていたあの「おじさん」ではありませんか！そうです、昨日、「露天風呂 鶴の湯」の写真撮影が出来なかったのはこの「おじさん」が先に入浴していたからなのです。「おじさん」もまた、「賑やかな連中がまた来た！折角、静かにのんびり温泉に浸っていたのに…！」とそんなぼやき声が聞こえて来そうでしたが、今度は遠慮しながらも入浴中の記念写真を撮影しました。残念ながら、天候が悪く、露天風呂からは田沢湖を展望出来ませんでした。疲れた体はしっかり癒やされました。温泉から上がりいよいよ昼食です。既に第一、二陣は、温泉、昼食を終え既にバスへ乗り込んで一杯やっているようです。



まずは泡のバイタル(生ビール)で無事に下山出来たことを感謝し、乾杯！名物の稲庭う



どん(いくら疲れているとは言え、汁がしょっぱすぎました。皆さんは如何でしたか?)を食べ、会長の天麩羅もご馳走になり満足したところで予定時刻通りにバスに乗り込みました。

レンタカーを田沢湖駅で返却し、後は本日の宿泊地である山形県鶴岡市「湯野浜温泉」(山形の上山温泉、福島の大温泉とともに奥羽三楽郷に数えられた温泉として有名です。)へ直行です。バスの外は台風10号の影響で雨風共に激しい状況となっていますが、相も変わらずバスの中では宴会が続きました。毎回思うのですが、良くもこんなに次から次へと色んなお酒が出てきて沢山飲めますよね! 熟々感心させられます。登山に来ているのか、飲みに来ているのかよく解りませんが…恐らく飲んでる時間が一番長いでしょうね! 片時もコップを離さない! これも「友の会」ならではの光景でしょうか?

バスに揺られること約3時間余り、漸く本日の宿「温泉民宿 しらはま屋」へ到着しました。源泉 100%掛け流し温泉の「しらはま屋」はご承知の方も多いと思いますが平成25年の鳥海山の現地研修会の際にお世話になった宿だそうです。(小官は不参加でした。)どうやら、今回はトイレ、お風呂がリニューアルされた様です。(佐々木氏談)

昨日とは違うメンバーでの部屋割り、各自部屋に荷物を置いて早速、温泉を堪能することになりました。



湯野浜温泉は、天喜年間、傷を負った亀が湯浴びをして日に日に傷が癒えるのを地元の漁師が発見したのが始まりとされ、庄内藩領の庄内三大名湯(①温海(あつみ)、②湯田川、③湯野浜)の一つです。泉質はナトリウム・カルシウム・塩化物物質です。

入浴後は大広間に集まり泡のバイタル(ビール)を飲む。やっぱり温泉を浴びてからの泡のバイタルは格別だ!

テレビでは台風10号の様子を生中継で報道している。映像を見るとやはり強い勢力だ。どうやら、18時頃に岩手県大船渡付近に上陸する見込み。もう間もなくだ!

1951年(昭和26年)に気象庁が統計を取り始めて以来初めて東北地方の太平洋側への直接上陸。依然として外は雨と風が激しい。雨はサッシを叩きつけ、風は音を立て電線が大きく揺さぶられ



ている。暫くは強い雨風が続く。ただ、大きな被害が起きないことを案じるだけだ!

外は大雨、強風と大荒れの天気だが、宿の中では台風も何のその! 待ちに待った夕食となった。昨日同様、今日もくじ引きで席を決める。テーブルの上は所狭しと並べられた紅ズ



ワイガニ、大エビの天麩羅、焼きホタテ、イカの丸ごと焼き、ノドグロ？の煮付け、山菜の煮物など海の幸が盛り沢山、更に別皿で刺身（マグロ、タイ、カツオ、イカ、タコ、ホタテ、北寄貝多種の魚介類）の盛り合わせ。昨日同様、全部食べられるのかな？

会長の挨拶、今回最も遠路から参加された大江さんの乾杯で宴が始まりました。皆さんカニを食べるのに必死で自ずと無口になり、アルコールの進み具合は今一つだった様ですが、勿論、沢山飲まれた方もいた様です。美味しい海の幸に皆さん大満足の様子でした。（岩牡蠣が出たら最高でした。）宴会終了後は、温泉に入り昨日同様、早めの就寝となりました。



3日目：8月31日（水）天気：晴れ

今朝も5時起床（毎日目覚まし時計並だ）。寝る前に温泉に入り、熟睡できたため本日も頗る快調！早速、窓を開け空を見る。正に台風一過だ。昨日の大雨と強風は一体何だったんだろう！見事なまでに晴天。早速、テレビをつける。どうやら台風は青森県を横断して夜日本海に抜けた様だ。住宅の屋根が飛んだり家に土砂が流れ込んだりで負傷者も出ている。約47万人に避難指示や勧告が出され、東北6県で倒木の影響などで延べ8万3千戸が停電。北海道、岩手県を中心に大きな被害が出ている様子。現在、孤立し安否も解らない人達が多数いるらしい。何れにせよ最小限の被害であって欲しいと願うだけ。時間が経てば明らかになるのだが…。



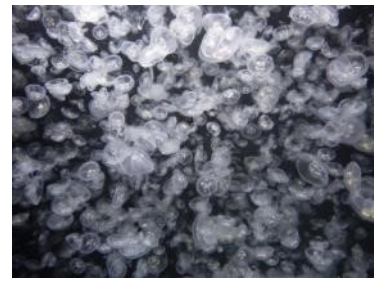
今朝も温泉に入浴してから泡のバイタルを一杯！朝からの一杯は休暇故出来ること！（土日でなく、休暇を取っている Weekday だから尚更良いのです。）至福の一時が流れます。勿論、毎日だと墮落しそうです！肝機能も悪化し、アルコール依存症へまっしぐら。まだまだ若いつもりなので…体を労りつつ…も美味しく頂く。

朝食を食べ、宿をバックに皆で集合写真を撮影（勿論！荻野オフィシャルカメラマン撮影）。宿から車で15分程の場所にある鶴岡市立加茂水族館（通称：くらげ水族館（くらげドリーム館））へ向かう。早く到着したため開館時間の9時まで待機してからの入館となった。



最初に庄内の淡水魚、海水魚等を見てから、全国的にこの水族館の知名度を上げたクラネタリウム（クラゲの水槽）を見学、クラゲの給餌解説等を聞いて数多くのクラゲの生態、幻

想的な遊泳などを見ながら心を癒やして、水族館を後にしました。(後に新聞で知ったのですが天皇、皇后両陛下は9月10日「第36回全国豊かな海づくり大会」に出席するため、私達が見学した鶴岡市立加茂水族館を訪問され、湯野浜の旅館で歓迎レセプションに出席し



たとの記事が掲載されていました。)

バスは国道7号線を日本海に沿って南下し、お名残惜しみながらも大江、相澤さんをJR温海(あつみ)温泉駅で下ろし、来年の8月28日(月)~31日(水)山形県月山での再会を期して別れ、一路信州は松本市を目指して走ります。JR温海駅を出てから暫く行くと、羽越本線を北上してくる珍しい列車が来るのを最後部の中央でどっしりと座っている会長を見つけました。「今まで見たことのない珍しい列車が来るよ！」それはチョコレート色のメタリックで精悍な車両です。何処か気品に満ち溢れ、誰一人見たことがない初めて目にする列車です。早速、スマホで検索、なんと！E655系「和(なごみ)」の愛称を持つ天皇陛下のお召し列車と判明しました。相澤さんからも早速、天皇陛下のお召し列車が温海駅を通過したとのLINEが寄せられました。この車両、2007年(平成19年)に登場した東日本旅客鉄道の交直流特急型電車で6両編成(3両目が特別車両:御料車(木材を基調にシックな内装))1本が在籍しています。運転自体が年に1回あるかないかなので見られたことは極めて希なのです。天皇陛下が乗車の際には先頭車両の中央に金色の菊のご紋、国旗の日の丸が取り付けられます。正に今見た車両に間違いありません。こんなレアな車両を目に出来たのも、やっぱり「友の会」のメンバーは何か持っています。(見られたのは天皇、皇后両陛下が第36回全国豊かな海づくり大会(山形県酒田市・鶴岡市)に出席後、東京へ戻るための試験運転だったのでしょうか?)車中では、またお召し列車を酒の肴にまだまだ宴会が続き松本到着まで終わる様子はありません。

途中、道の駅協和で、いぶりがっこ、稲庭うどん等秋田名物のお土産などをたっぷり買い、高速のサービスエリア(飲み過ぎていて名称を忘れました。)で昼食をとり、国道7号



線、日本海東北自動車道、北陸自動車、上信越自動車道、長野自動車道と南下し途中で、堀内、広沢さんを下ろし、JR松本駅アルプス口に16時30分無事到着しました。

台風10号(LIONROCK)と共に北上を続けた楽しく思い出に残る2泊3日の現地研修会を無事終了することが出来ました。皆様大変お疲れ様でした。また、来年8月28～31日(山形県月山)を楽しみにしていますので宜しくお願いします。

お終い！

P. S.

改めて、岩手県(太平洋側)、北海道(十勝・上川地方)に大きな被害をもたらした台風10号の被害に遭われました皆様に関心からお見舞い申し上げます。また、一日も早く平穏な生活に戻れますようお祈り致します。

車中で余りにも盛り上がり過ぎたため急遽、市内某焼き鳥屋「鳥〇〇」さんで軽く反省会を行うこととなりました。早速、会長からお店に予約を入れて頂きました。(残念ながら会長は別の会議出席のため不参加となりました。)



講演会に講師として出席予定の市川副会長にもご無理を言ってお越し頂き、有志9名(カウンターのみの席で、ほぼ貸し切りに近い状態でした。)で市川副会長に研修会のご報告をし、大いに飲んで食べて盛り上がりました。

小官は、夜飯山市へ戻る予定をしていたのでソフトドリンクでお付き合いをするつもりでしたが、このメンバーでこの盛り上がり！元来、酒は好き(余り飲めませんが…)な方なので飲まずにはいられない状況となり、急遽、明日の朝、飯山市へ戻ることに変更しました。初めてののお店でしたがどの品も大変美味しくほぼ全種類頂きました。(後から来られたお客さんが注文するとほぼ品切れの状態となっていました。沢山食べてすいません！)



その後、佐々木・こば Q・滝沢・タッチャマンさんと5名で、こばQさんの行きつけの店「た〇〇」に伺い、またまた盛り上がり過ぎてしまいました。女房に迎えに来てもらいアパートに着いたのは既に10時を回っていました。翌朝、4時起床、シャワーを浴びて朝食を食べ5時にアパートを出発し、高速で飯山へ戻りました。

レポーター:ペンネーム:瀬祭036(DASSAI036)ことドラエモン

第 27 回現地研修会『カクネ里大雪溪(氷河)を遠望する』 報告

快晴と思われたが、テレキャビンを降りて見上げた遠見尾根はガスの中。少し肌寒い中を参加者17名は元気に地蔵の頭をめざした。ブナの木の間を登り、一の髪 二の髪を越えて小遠見をめざした。小遠見に着いた時には鹿島北峰の懷に雪溪もみえていた。小遠見にて佐々木先生より「氷河」のお話を聴く。



急にガスった小遠見を後に中遠見に着けば正面に見えるはずと頑張ったのですが、中々数は上がってくれません。それでも正面に国内4例目の「氷河」を遠望しお昼に熱くお話しいただいた佐々木先生のお話しに全員感動しての現地研修でした。

小林 久雄

信州大学山岳友の会会報 第23号
発行日：2016年11月8日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp